

第5回 教育委員会 会議録

- 1 開催日時 令和4年5月18日(水)午後1時30分
- 2 開催場所 大町市役所 西会議室
- 3 出席委員 教 育 長 荒 井 今 朝 一
同 職 務 代 理 者 中 山 晴 隆
委 員 仲 原 直 美
委 員 下 川 清 志
委 員 森 し の ぶ
- 4 説明のため出席した者
教 育 次 長 竹 内 紀 雄
教 育 参 事 太 田 三 博
学 校 教 育 課 長 平 林 政 規
生 涯 学 習 課 長 牛 越 秀 仁
ス ポ ー ツ 課 長 松 下 明 夫
山 岳 博 物 館 副 館 長 鈴 木 啓 助
学 校 教 育 指 導 主 事 中 村 一 郎
学 校 教 育 指 導 主 事 吉 澤 清
- 5 事務局 学校教育課庶務係長 柳 澤 俊 樹
学校教育課再編係長 一 本 木 晋

《開会 午後1時30分》

荒井教育長

皆さん、こんにちは。それでは、第5回の定例教育委員会を開会させていただきます。

それでは、会議録については、ただ今回覧をしています、よろしいでしょうか。

[全委員、「承認」]

それでは、署名をお願いします。

まず初めに教育長報告をいたします。

(資料に基づき説明。)

以上となりますが、ご質問がありましたらお願いします。

[発言なし。]

よろしいですか。

[全委員、「了承。」]

教育長報告は以上といたします。

次に、行政報告第1号「学校における事件・事故等」について報告してください。

平林学校教育課長 (資料に基づき説明。)【非公開】
荒井教育長 説明が終わりました。質問、ご意見がありましたらお願いします。
〔全委員、「意見等なし。』〕
細かい指導については、各校長と面談をして指導しています。
この件は、以上といたします。
次に、議事に入ります。
最初に、報告第2号「大町市公民館運営審議会委員の委嘱」について提案をお願いします。

牛越生涯学習課長 (資料に基づき説明。)
荒井教育長 説明が終わりました。既に委嘱が終わり、運営審議会が開催されたという報告としてここには掲載してございますが、質問、ご意見がありましたらお願いします。
〔全委員、「意見等なし。』〕
よろしいでしょうか。
〔全委員、「承認。』〕
では、この案件についてはご承認をいただきました。
次に、報告第3号「市立山岳博物館協議会委員の委嘱」について提案をお願いします。

鈴木山岳博物館長 (資料に基づき説明。)
荒井教育長 説明が終わりました。ご質問、ご意見ありましたらお願いします。
〔全委員、「意見等なし。』〕
よろしいでしょうか。
〔全委員、「承認。』〕
では、この案件についてはご承認をいただきました。
次に、報告第4号「大町市スポーツ推進審議会委員の委嘱」について提案をしてください。

松下スポーツ課長 (資料に基づき説明。)
荒井教育長 ・新しい委員の名字訂正。「篠原」⇒「篠崎」
説明が終わりました。ご質問、ご意見ありましたらお願いします。
〔全委員、「意見等なし。』〕
よろしいでしょうか。
〔全委員、「承認。』〕
では、この案件についてはご承認をいただきました。
次に、報告第5号「令和3年度大町市一般会計補正予算(第15号)」について提案をしてください。

竹内教育次長 (資料に基づき説明。)
荒井教育長 説明が終わりました。ご質問、ご意見ありましたらお願いします。
森教育委員 学校給食費について、現在、食材や燃料費が高騰していますが、保護者からいただく給食費は、このままで大丈夫でしょうか。

平林学校教育課長 森委員さんご指摘のとおり、様々な食材等が高騰しているため、現在、調査をしております。

先程ご説明いたしました昨年度につきましては、物価上昇等が無かったため負担も少なく決算を迎えることができました。

今年度につきましては、物価の上昇に対する国の施策で、その上昇分について交付金という形で手立てがされましたので、その交付金を活用しながら学校給食の運営をしてまいりたいと考えております。

森教育委員 はい、わかりました。

荒井教育長 他に質問ございますか。

下川教育委員 二つあります。教えてください。

まず、29 ページ、放課後子ども総合プラン推進事業補助金とは、放課後子ども教室の講師の方に対する支出ということでしょうか。

牛越生涯学習課長 はい、そのとおり人件費でございます。

実績に合わせた対象経費の 2/3 としての県補助金です。

下川教育委員 はい、わかりました。

東小や八坂において開催された学校運営協議会でも生涯学習課の担当者からこの取組みについて説明がありましたが、もう少し他の学校にも取り組んでいただくことを想定しての予算であったということですか。

牛越生涯学習課長 目標にまでは達しなかった減額補正となりました。

下川教育委員 はい、わかりました。

もう一つ、37 ページ、G I G Aスクール事業の通信運搬費の 170 万円の減額について、どのような事態が発生して減額になったのか教えていただきたい。私の理解では、定額の L T E 回線使用料に端末の台数を掛けた固定費と思っていましたので、減額になった理由を教えていただきたい。

太田教育参事 当初予算では、端末等の台数増について対応できるように、ある程度余裕を持って予算化しています。結果的に、不要確定になった予算について減額いたしましたところ です。

回線利用料が安くなったということではございません。

下川教育委員 はい、わかりました。

現在、L T E 1 回線当たりどのくらいの回線使用料ですか。

後程教えていただければと思います。

平林学校教育課長 承知いたしました。

荒井教育長 他に質問ございますか。

〔全委員、「質問等なし。〕〕

それでは、お諮りをいたします。報告第 5 号についてご承認いただくということよろしいですか。

〔全委員、「承認。〕〕

はい、それでは、この件については本日付でご承認をいただきました。

次に、議案第 23 号「令和 4 年度大町市一般会計補正予算(第 2 号)」について提案をしてください。

牛越生涯学習課長
荒井教育長

(資料に基づき説明。)

提案が終わりました。ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

〔全委員、「意見等なし。」〕

それでは、採決をいたします。

議案第 23 号について、賛成の方は挙手をお願いします。

〔全委員、「挙手。」〕

挙手全員であります。

よって、この件については議決となりました。

次に、議案第 24 号「大町市社会教育委員の委嘱」について提案をしてください。

牛越生涯学習課長
荒井教育長

(資料に基づき説明。)

提案が終わりました。ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

〔全委員、「意見等なし。」〕

それでは、採決をいたします。

議案第 24 号について、賛成の方は挙手をお願いします。

〔全委員、「挙手。」〕

挙手全員であります。

よって、この件については議決となりました。

次に、先程、行政報告 2 について報告漏れがありましたので、行政報告 2 「いじめ・不登校の状況等」について報告をお願いします。

中村学校指導主事
荒井教育長

(資料に基づき説明。)

説明が終わりました。まず、いじめについてご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

森教育委員

いじめ側(加害者)の保護者も含めた児童生徒への指導についてお聞きしたい。

中村学校指導主事

殆どの学校の例を見ると、保護者を学校に呼び事実をしっかりと伝えるとともに、今後の指導についてご協力いただくという対応をしております。

場合によっては、加害者と被害者による話し合いにより仲直りをするというような形を執る場合もあります。この形が一概に良いということではありませんが、特に小学校ではそのようなケースが多く、いじめの問題についての区切りとして「これで解決したよ」ということを学校では指導している状況にあります。

ただ、私たちから学校にお願いしているのは、仲直りしたことで終わりではなく、その後の見守りや確認等を続けて欲しいということをお願いしています。

荒井教育長

1年に1回あるか無いかの例ですが、校内に必置してあるいじめ対策委員会で扱う以上に特に悪質な場合には、直接私が関わり対応することもあります。

他にございますか。

いじめの件についてはよろしいですか。

〔全委員、「発言等なし。」〕

では、不登校・不適應についてはいかがですか。

中山教育長職務代理者

東小や南小では不登校児童がいないという説明がありましたが、中学へ進学してから長期欠席になってしまう実態もあります。小学校の対応だけで中学校で通用するかどうかは難しいところもあり、所謂中1ギャップでの指導など様々な取組みを行っていただいておりますが、中学になると教科担任制という環境の変化もあり、中々、効果が出ないままにズルズルと不登校になってしまう場合も実際にありますので、このような実態を解決するにはどのような方法が考えられるかお聞かせいただきたい。

学習についていくことができなかつたり、話し合い学習など集団の中で学校生活を送れないというようなことや、発達障がい起因する状況もありますので、一概に何とも言えませんが、何か案があればお聞かせください。

中村学校指導主事

この資料にある不登校の要因については、不登校の児童生徒に直接聞いた調査ではありませんので一概には言えませんが、やはり不登校の多くの子ども達は学習面でのつまずき、ということが原因にあるかと思えます。また、人間関係がうまく築けない子どもや、大きい集団が苦手なお子さんというのは、学年の中にある程度は存在しているかと思えます。

学校においては、全体の子ども達が「学校に来るのが楽しい」というそういった学校づくりを進めています。

今年度特に力を入れていきたいのは、まだ休み始めているお子さんや、周りの友達とうまく関われないという状況に至ってはいないお子さんを、学校の先生方の注意深い観察によって、「最近元気ないな」「学習の様子に落ち着きがないな」というような気になる生徒について、私と県から配置されているSSWとで学校を巡回して、ちょうど今、聞き取りを行っています。その中で、できるだけ子ども達の状況を聞き取り、先生方と一緒に考えなるべく早期な対応ができるような体制づくりをしています。とにかくできるだけ早い段階での初期対応をしていきたいと、今年は大事にしていきたいと思っています。

学校においても一生懸命対応はしていますが、後手後手にまわる場面もあり、子どもとの繋がりをうまく作っていくのに時間がかかってしまいますので、もっとこちらからの支援ができるということの一つの目標にしていきたいと考えています。

荒井教育長

2 ページをご覧ください。実は、親子との関わりという問題が非常に多いのですが、これは二次的なものだと思っています。

何故かと言いますと、実際にはいじめということが無くても、何となく集団に交われないというお子さんや、何となく学校に行く事に無気力になってしまうお子さん、或いは、そのために学業不振になっているお子さんがいるかと感じています。そのことが本当は主たる原因ですが、学校から保護者に伝えた時にその保護者が積極的にそのことを受け止めないと、学校の判断が鈍ってしまいその判断がこの調査に反映されてきてしまっています。ですが本当は、それは学校側からの見方であって、実際の原因となっている部分は、学校の中での自分の居場所が確保できない、或いは、無気力であるが故に学力不振になる、或いは、生活リズムが不規則になり、そのことが原因で不登校になってしまう。しかし、学校から保護者にその原因を伝えても保護者が真剣に受け止めてくれないと、このような調査結果になってしまう。ここの調査結果は学校側の見方であるので、実際のところとは少し違っているのだと私自身は受け止めています。

不登校の対応について、学校によって差異があることは感じています。また、率直に言って、先生方の指導力にも温度差があるのは否めません。しかし、このような問題への対応は先生個人の力量だけの問題ではなく学校全体で一緒になって取り組まないと解決できませんので、そういった事については各学校長との面談においてしっかり伝えてあります。

この不登校の問題は、今年、私自身も非常に重く受け止めています。

吉澤先生、そのような事ですね。

吉澤学校指導主事
中山教育長職務代理者

はい、その通りです。

小学校時代に 30 日以上欠席があったお子さんも、中学に入った段階の 4 月から 5 月位までの間に気持ちをリセットするお子さんがいるので、その時に小学校時代のデータを見過ごしてしまって、見た目は元気にはしているのだけれども、実は心配もあるよという視点から見守りをスタートして欲しいなと思います。

荒井教育長

小学校からの学業の不振や何となく不安感があつたり教室の中に居場所がなかったりというお子さんが、中学に進学してからそのような事がリセットできればいいのですが、そのまま引きずっている時に学校側がしっかり捉えて対応できればいいと感じます。しかし、それができないと、ある意味学業に対するカルチャーショックが起きてしまいます。何故かという、小学校までは学級担任制指導されていたものが教科担任制になりますので、例えば、数学の分数がよく解っていない、文字式がよく解らないなど、解らないまま夏休みを迎えてしまいます。そうすると、様々な諸要件と学業への不安

や不振が繋がって夏休み明け位から学校に行きたがらなくなってしまうお子さんがいるのと、それから、小学校でいろいろ課題が出てくるお子さんは、思春期を迎えた女子児童が多いと感じています。それは、仲間づくりの過程において排除の理論が子ども同志の中で働いてきて、居場所ができないことや無視をされたりすることに繋がっています。そして、こうしたことがそのまま中学生まで引きずってしまう例も見られます。個別には様々な案件がありますけれども、学校では注意深く対応いただくようお願いしています。

下川教育委員

中村先生から紹介がありました東小学校で3年位前から始めているプロジェクト活動はとても良い取組みで、子ども達も随分変わってきていますが、一方で、先程中山先生からお話がありましたように、中学へ進学したら不登校になってしまうケースもあるとういうことでショックを受けています。

プロジェクト活動は、総合の時間を上手に活用して、地域の人との関わりも含めて学んだことを教科横断的に活用するということが主体的にできています。そのような取組みが中学校の様々な学習の中ではできないのか、総合の時間というのは中学でもあるはずなので、小学校で取り組んでいるようなことが中学校でもできれば、活躍もできるし面白くもなる、と感じたところです。

荒井教育長

体制が小学校とは違います。中学校での教科担任制と小学校での学級担任制で指導しているのは大きく違います。

中学校では勿論担任はいますが、教科ごとに先生が変わって授業を行いますので、どのように教科横断的に子どもたちに関わっていくのか、また、総合的にやっていくのかということは少し小学校とは変わってくると思います。今取り組んでいる協働の学びは、子ども達の協働の学びとしては取り組んでいます、先生方の協働の指導ということも非常に大事になってきます。従って、そのようなことも考えて取り組んでいただきたいということも校長先生たちにはお願いをしているところです。

下川教育委員

複数の先生方で子ども達を見るということですね。

荒井教育長

その通りです。複数の先生が子ども達と接することの良さと、マイナスもあります。それだけ密度の濃い対応が取れない。でも逆に言えば、相性もありますが、そういう意味では中学校の方が良いのかもしれない。合う教科と合わない教科も出てくるであろうし、先生に対してもそのようなことがあるかもしれません。

下川教育委員

私の中学校時代での経験からすると、中学2年生の時に再編で二中から一中に行き、一中の時のクラス担任は数学の先生でしたが、とてもいい先生でした。そのようなクラスをまとめる先生は現在でもいると思っていて、それが一人だと合う合わないの相性もありますが、複数の先生で生徒を見るということも大事であると感じます。

これから大町中学校で500人以上の規模になると、不登校の人数

も増えていくのではないかと心配します。

荒井教育長 勿論、学業の不振など様々な問題はありますが、不登校の問題は一番大きな課題であると思っています。

下川教育委員 以前、中村先生から不登校のお子さんが登校できるようになった事例として、教育支援センターで支援を受ける中で特定の教科についてとても興味を持ち、その教科がある時には学校に行けるようになったり、担任が家庭訪問繰り返す中で、将来の自分の進み方を見出して学校に行けるようになったというお話を伺いました。

このような個別の対応が大事であると思います。

荒井教育長 今、キャリア教育を行っていることが、そういう事です。

今の子どもは目標を持ってないでいます。目標を持つことができないと、学校に行く事に対するの必要性や意義を感じないのだと思います。原級にいるお子さんの中には、目標が見つからず、不安定になったり、疲れたり、息切れをしてしまうお子さんがいます。そうになると、心の相談室や保健室に通うようになります。

やはり、子どもたちはキャリア教育を通じて自分の生き方について自信や目標を持つことができるようにしていかなければいけないと思います。そのように広く不登校を防ぐ指導をしていくことと、個別のお子さんの状況に応じて学校で対応していく場合があるとあります。

何れにいたしましても、この不登校のことは重く受け止めなければいけないと思います。

よろしいですか。

〔全委員、「了承。」〕

では、この件は以上といたします。

次に、協議事項に入ります。(1)校歌の検討経過について説明をお願いします。

一本木学校再編係 (資料に基づき説明。)

長

荒井教育長 説明が終わりました。ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

下川教育委員 八坂の準備委員会の時に、小学校と中学校の職員室をネットワーク接続していただきたいという要望がありましたが。

一本木学校再編係 以前からお話をいただいております、現在要望にお応えできるように進めています。

下川教育委員 はい、わかりました。

荒井教育長 他にございますか。

〔全委員、「意見等なし。」〕

では、この件は以上といたします。

次に、(2)校章デザインの選定についてお願いします。

一本木学校再編係 (資料に基づき説明。)

長

荒井教育長

説明が終わりました。ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

〔全委員、「意見等なし。」「了承。〕〕

教育委員会として了承をいただきましたので、本日の校名等検討委員会で提案をしてください。

次に、(3) 各種審議会等の選任について説明してください。

柳澤学校教育課庶務係長

(資料に基づき説明。)

荒井教育長

説明が終わりました。

ご意見、ご質問ございますか。

〔全委員、「意見等なし。〕〕

大町市行政改革推進委員会の委員は中山教育長職務代理者、大町市子ども・子育て審議会委員には仲原教育委員で、それぞれお願いします。

〔全委員、「了承。〕〕

次に、(4) 主幹指導主事学校訪問の日程について説明してください。

柳澤学校教育課庶務係長

(資料に基づき説明。)

荒井教育長

出席の有無について提出いただきたいと思います。

〔全委員、「了承。〕〕

竹内教育次長

以上で協議事項は終了となりますが、その他で何かございますか。給食食材の高騰への対応について、先程説明がありましたとおり国の臨時交付金を活用する予定としております。本来であれば本日の教育委員会へ議案としてお諮りできればよかったのですが、ただ今額の確定に取り組んでおり、来月 23 日の教育委員会でご報告させていただきますので、予めご了承いただければと思います。

荒井教育長

専決で処理をいたしますので、後の報告という意味です。なお、コロナについては臨時交付金を活用することで対応できますが、長期的には給食費について別途検討しなければいけないと考えております。

〔全委員、「了承。〕〕

次に、当面の日程について説明をしてください。

柳澤学校教育課庶務係

(資料に基づき説明。)

荒井教育長

7月の定例教育委員会は、7月20日(水)午前10時から西会議室でよろしいですか。

〔全委員、「了承。〕〕

松川村で開催される6月28日の地教委連の日程については、昨年

同様の日程です。午前中開催で昼食後解散となります。

確認になりますが、コロナの状況にもよりますが、2年連続で実施できていない行政視察を検討したいと思いますので予めご承知おき下さい。

〔全委員、「了承。」〕

もう一点、学校再編に関連してお手元に資料「児童生徒数の推移」をお配りしてあります。令和4年度をご覧いただきたいと思いますが、想像していたよりも児童生徒数が減少していない状況にあります。1,600人を下回る推移を示すかと思っていましたが、比較的減少幅が少ない状況であります。参考としていただきたいと思います。

全体を通して何かございますか。

〔全委員、「意見等なし。」〕

以上を持ちまして、第5回教育委員会を閉じさせていただきます。
ありがとうございました。

《閉会 午後3時10分》